

補助金評価シート

区分	重点・重点以外	補助根拠	法令補助・その他補助	開始時期	令和3年4月1日	終期	令和6年3月31日
補助事業名	福島潟自然文化祭イベント助成金						
[下段に制度概要を記載]	「福島潟自然文化祭」の開催により、福島潟のPR及び理解促進を図るため、イベント実施にかかる経費を補助する。 福島潟で活動する市民団体、自治会・コミュニティ協議会などを構成員とする「福島潟自然文化祭実行委員会」が実施主体となり開催している。						
款・項・目	総務費・総務管理費・区政推進費						
所属等	北区役所 産業振興課 文化・スポーツグループ 電話 025-387-1195						

年度		令和3年度(1年目)	令和4年度(2年目)	令和5年度(3年目)
予算額等の推移	予算(千円)	0	2,500	2,500
	決算(千円)	0	1,087	2,430
補助率		10/10		10/10

目 標	<p>「福島潟自然文化祭」の開催により、福島潟のPR及び福島潟で行われている自然保護活動のPRを図るとともに、多くの人から足を運んでもらい、福島潟の認知度を上げる。また、参加者から福島潟の自然に親しんでもらうことで福島潟及び潟の自然保護に関する関心を高めてもらう。新型コロナウイルス感染防止対策を徹底の上、安全に実施する。</p> <p>&lt;目標が数値でない場合の評価方法&gt; 補助事業者からの実績報告書等により補助事業の遂行状況を確認する。</p>		
-----	---	--	--

目標に対する達成度(指標)	達成率100%以上			
	達成率 80%以上	未実施 (新型コロナウイルスにより中止)	縮小開催 (新型コロナウイルス対応のため)	
	達成率 50%以上			
	達成率 50%未満			
	目標が非数値化 ※取扱基準に記載した評価手法に基づく達成度について記入してください	新型コロナウイルス感染症の影響により来場者を制限し、各種催しも減らしての縮小開催としたが、無事4年ぶりに実施することができた。来場者は潟の魅力に堪能し好評だった。(来場者2,700人)		コロナ禍による制限がなくなり通常開催として実施した。メインイベントである雁迎灯をLEDに切替えるなど持続可能な取組みを行い、多くの来場者から好評をいただいた。(来場者9,600人)

補助事業者による情報の公表	イベントポスター、チラシ
---------------	--------------

評価欄	チェック	a. 補助対象経費は事業の直接経費となっているか	○	e. 指標の推移が維持・向上しているか	○
		b. 補助率は1/2以内か	×	f. 補助事業者による情報の公表は適正に行われているか	○
		c. 補助額が5万円以上になっているか	○	g. 目標は数値化されているか	○
		d. 収入が過剰になっていないか(繰越金が生じていないか)	○	h. 目標は補助金の成果を検証しやすい設定か	×
	×になった項目に対する今後の取組	<p>&lt;a~fにおける取組&gt; 実行委員会への補助金として係る経費を補助。補助対象経費に対する適正な執行を引続き管理監督していく。</p> <p>&lt;g~hにおける取組&gt; コロナ禍が終結したため、来場者数など客観的評価に資する数値目標の設定が図れるよう検討する。</p>			
	目標未達成の原因分析	<p>&lt;期間(3年)を通して目標達成率80%未満の場合、なぜ達成できなかったか&gt; 令和3年はコロナ禍によりイベント未実施、令和4年度は縮小開催、令和5年度は通常開催として実施したため。</p>			
	<p>① 拡充・改善(補助率、補助額、補助対象経費、その他) ② 継続 ③ 廃止</p> <p>①~③の評価理由 ※目標未達成の原因分析に該当の場合はその要因を踏まえて今後どうするのかを記載すること 当イベントは北区の一大イベントとして定着しているうえ、コロナ禍前は多くの来場者があり、福島潟のPR及び潟の自然保護への関心を高めることに大いに役立ってきた。また、財政基盤が脆弱ではあるが、地元自治会や小中学校、青年会議所、福祉団体、地元大学生など、さまざまな団体で構成する実行委員会が企画・運営することでイベント内容の充実が図られている。コロナ禍が収まり、より多くの来場者に福島潟の魅力を引き継ぎPRするため、自主財源の確保や経費削減に努めつつ、安定した運営をめざして今後も補助を継続していく。</p>				